

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

小児急性中耳炎診療ガイドライン 2024 年版

日本耳科学会, 日本小児耳鼻咽喉科学会, 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会小児急性中耳炎診療ガイドライン作成委員会(委員長 林達哉 旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
金原出版株式会社 2024 年 5 月 15 日発行

Minds 掲載 無

Grading Scale of Strength of Evidence

- A. よくデザインされた RCT, あるいは適切な対象に対するよくデザインされた診断的研究【強いエビデンス】
- B. 小さな限界を伴う RCT あるいは診断的研究; 観察研究から得られる非常に一貫したエビデンスの存在【十分な(中程度の)エビデンス】
- C. 観察研究(症例対照研究, コホート研究)【弱いエビデンス】
- D. 専門家の意見, 症例報告, 基本的原理に基づく論拠【不十分な(とても弱い)エビデンス】
- X. 妥当性の高い研究の実施が不可能【益と害の優位性が明らかであるような例外的状況である場合に検討対象とする】

Grading Scale of Strength of Recommendation

重大なアウトカムに対するエビデンスの質の評価に加えて, 益と害のバランスを考慮して決定する方針とした。推奨の強さならびに具体的な推奨文は委員会の総意に基づいて決定。

■1 十全大補湯

疾患:

反復性中耳炎

CPG 中の Strength of Evidence:

B: 【十分な(中程度の)エビデンス】

CPG 中の Strength of Recommendation:

推奨

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ3 反復性中耳炎に対して漢方薬は有効か』の解説に以下の記載がある。

『反復性中耳炎は2歳未満の免疫能の低い乳幼児に高頻度に認められ、乳幼児に免疫賦活・栄養状態改善作用のある補剤の一種である十全大補湯の有効性が報告されている。』

■2 十全大補湯、補中益気湯

疾患:

反復性中耳炎

CPG 中の Strength of Evidence:

B: 【十分な(中程度の)エビデンス】

CPG 中の Strength of Recommendation:

推奨

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ3 反復性中耳炎に対して漢方薬は有効か』の解説に以下の記載がある。

『漢方では足りないものを補う治療法、すなわち補剤の投与が行われる。これにより身体の恒常性を回復させる。代表的な補剤としては、十全大補湯と補中益気湯がある。』

■3 十全大補湯

疾患:

反復性中耳炎

CPG 中の Strength of Evidence:

B: 【十分な(中程度の)エビデンス】

CPG 中の Strength of Recommendation:

推奨

引用など:

1) Maruyama Y, Hoshida S, Furukawa M, et al. Effects of Japanese herbal medicine, Juzentaiho-to, in otitis-prone children-a preliminary study. *Acta Oto-laryngologica* 2009; 129: 14-8.

2) Ito M, Maruyama Y, Kitamura K, et al. Randomized controlled trial of ju zen-taiho-to in children with recurrent acute otitis media. *Auris Nasus Larynx* 2017; 44: 390-7.

[EKAT 構造化抄録 \[PDF\]](#)

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ3 反復性中耳炎に対して漢方薬は有効か』の解説に以下の記載がある。

『反復性中耳炎の乳幼児に十全大補湯を3カ月間投与し、急性中耳炎罹患頻度の減少、発熱期間および抗菌薬投与期間の減少、救急外来受診回数の減少が観察され、その有効率を95.2%と報告した』

『6～48カ月の反復性中耳炎児を対象にRCTを行い、十全大補湯非投与群の急性中耳炎罹患回数が1.07 ± 0.72 回／月だったのに対し、投与群では0.61 ± 0.5 回／月と有意に減少したことを報告した』

<以上1～3の記載として>

副作用に関する記載ないしその要約:

『CQ3 反復性中耳炎に対して漢方薬は有効か』の『益と害の評価』の項目に以下の記載がある。

『患者が受ける害・不利益:まれな副作用(偽アルドステロン症)』